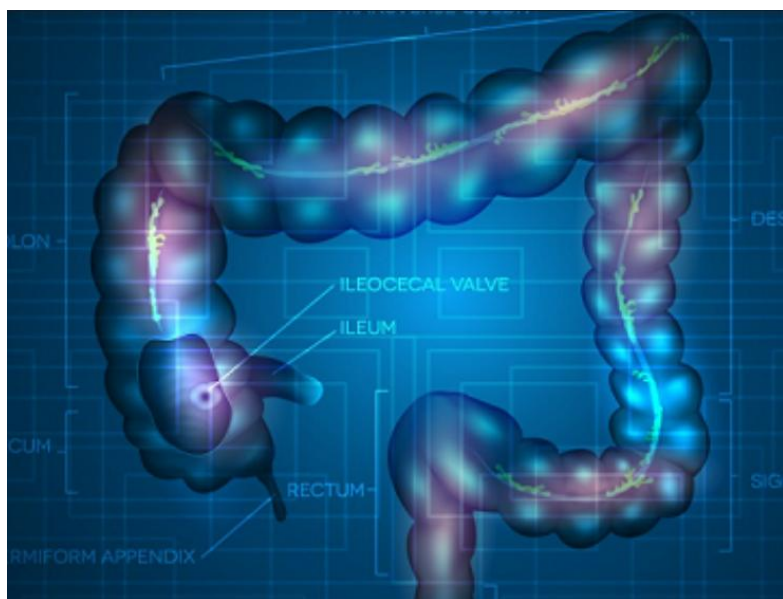


# 大腸内視鏡からがんを自動検出するソフト

昭和大学などの研究グループは、大腸のポリープが腫瘍性か否かを内視鏡画像から自動判別するソフトウェアを承認取得。承認を取得したのは、サイバネットシステムが2013年から開発を進めてきた人工知能（AI）内視鏡画像診断支援ソフトウェア（EndoBRAIN®）です。



このソフトウェアでは、超拡大内視鏡（オリンパス社製）で撮影された大腸の内視鏡画像から自動的に腫瘍か非腫瘍かを判別します。超拡大内視鏡は、最大 520 倍の光学拡大機能が付いており、内視鏡でリアルタイムに細胞レベルまで観察できます。ソフトウェアの臨床性能研究では、非専門医を上回る、正診率 98%、感度 97%の精度で腫瘍性ポリープと非腫瘍性ポリープを識別しました。

